

アート

これからの絵画について考える展覧会

MAT Exhibition vol.5 絵画の何か Part 2

Minatomachi POTLUCK BUILDING 3Fでは、1月28日（土）よりアーティストと共に絵画のこれからのについて考える展覧会「絵画の何か」のPart2を開催します。名古屋を拠点に活動するアーティストの佐藤克久と共に企画した本展は、Part1では絵画／立体を手法に作品を制作する若手アーティスト4名による展覧会を開催しました。Part2では、「ニュー・オールド・マスター」をテーマに、この地域で長く制作を続け、今もなお勢力的に活動を続ける70代、80代の3名の現役アーティストの経験や言葉から「絵画の何か」を考えていきます。また期間中には全3回で構成するトークシリーズ「絵画の夕べ」も開催します。展覧会やトークシリーズを通し、絵画を多角的に捉えることで、絵画の根強いこの地域における、ひいては今日における「絵画」の可能性を探ります。

展覧会

会期

2016年1月28日（土）～3月25日（土）
日・月休み

開館時間

11:00～19:00
(入場は閉館時間の30分前まで)

入場料

無料

会場

Minatomachi POTLUCK BUILDING
3F : Exhibition Space

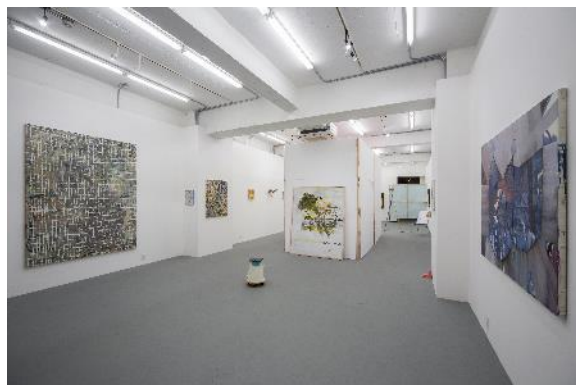
出展アーティスト

加藤松雄・原健・山村國晶

企画

佐藤克久（アーティスト）
Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]

協力

K.Art Studio、SHUMOKU GALLERY、
MISAKO & ROSEN、増田千恵

絵画の何かPart1の様子 | 撮影：城戸保

●オープニング・ポットラック・パーティー | 2017年1月27日（金）18:00-（持ち寄り歓迎・自由参加）

トークシリーズ「絵画の夕べ」

会場 Minatomachi POTLUCK BUILDING

アーティストや美術館学芸員をゲストに迎えたトークシリーズ

予約不要・定員30名

●第1回 「忘却／応用編」 2月18日（土）18:00-20:00

スピーカー | 小林耕平・鷺尾友公（アーティスト）
千葉真智子（豊田市美術館学芸員）

●第2回 「危機／不定形」 2月24日（金）19:00-21:00

スピーカー | 有馬かおる（アーティスト）・梅津庸一（アーティスト、パープルーム主宰）
佐藤克久（アーティスト／本展企画者）

●第3回 「ニュー・オールド・マスター／未来」 3月11日（土）14:00-16:00

スピーカー | 加藤松雄・原健・山村國晶（本展出展アーティスト）
木本文平（碧南市藤井達吉現代美術館館長）

■ 展覧会の見どころ

● アーティストの問題意識を考える展覧会。

本企画は、「絵画」という表現が次のフェーズへ向かうために必要とする「何か」というものを考察する取り組みです。愛知は多くの美術大学があり、優れた画家を生み出してきた地域です。本展出展アーティストの3名もこの地域出身の絵画の先達たち。どんなものに影響を受け何を体験してきたのでしょうか。今もなお進化しながら新作を制作し続ける彼らにはどんな絵画の未来が見えているのか、作品を通して、「絵画のこれから」を探ります。

● 独自の視点で絵画に関わるスピーカーとのトークシリーズ

トークシリーズ「絵画の夕べ」では、独自の視点で絵画に向き合い現在さまざまなシーンで活躍中のアーティスト4名と、2名の美術館学芸員と共に全3回に渡り、それぞれの立場から絵画について考察します。「絵画の夕べ」第3回では「ニュー・オールド・マスター/未来」と題し出展作家3名のそれぞれが持つ「言葉」や「経験」を共有し、これまでの活動とこれからの未来について伺います。

企画者の言葉

「絵画の何か」「絵画の夕べ」は展覧会/トークシリーズを通じて多くの経験と言葉を共有し、未だ見ぬ絵画を目指す企画です。私が課題にしている危機感（閉塞感）を掘り下げてみると、完全な自立性と普遍性を持ちえないはずの個人が、作品では自立性と普遍性を確立しなければならない、という矛盾と限界に気が付きます。

また、制作者が意識的/無意識的に受ける情報が均一化していることにより、交換可能な内容や技術による作品の平均化が起きていると思うのです。「絵画の何か Part1」では「何か=次元」と仮定し形式を超えた表現に並行して取り組む作家達に展示を依頼しました。会期中、ある作品の構造自体が変化することで、作者と作品、自立性と普遍性のどれかに偏ることなく、常に生成し続けるものとして矛盾を超える契機になったと感じています。

「絵画の何かPart2」は「何か=ニュー・オールド・マスター」と仮定し、後者の危機感について考えます。オールドマスターとは私たちがしばしば参照する「巨匠」を示す言葉です。ニュー・オールド・マスターとはその言葉を進行形として更新した造語です。同時代に生きる画家の先達として加藤松雄、原健、山村國晶の作品を展示します。近年彼らの作品に接し、新鮮な驚きと共感を覚えるとともに、自分の不勉強を反省しました。現在も進化し続ける彼らの作品は、私には開かれた世界に見えます。様々な影響に揺れながら、振れ幅をつくり柔軟性を選ぶのか、唯一性にむかうのか..... 永く制作を続けるサイクルの中で、出発点として「影響」を受けた物事を発酵させ作品に昇華した場合、そこからは何が見えてくるのでしょうか。

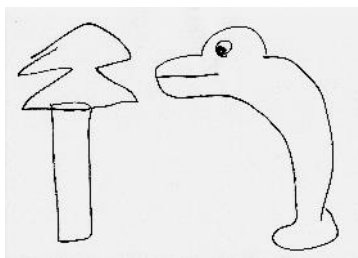
— 佐藤克久

同時期開催

Botão Gallery vol.9 平山昌尚/Akinao Hirayama 「絵 | PICTUER」

会期	2017年1月28日(土)-3月25日(土) 日・月休み
開館時間	11:00~19:00
会場	Botão Gallery
入場料	無料
企画監修	渡辺英司・MAT, Nagoya

※ウインドーギャラリーのため休廊日でもご覧頂けます。



平山昌尚 《6516》2016



平山昌尚 《6037》2016
タリオンギャラリーでの展示風景

協力

アッセンブリッジ・ナゴヤ実行委員会

■企画者プロフィール

▶佐藤克久/Katsuhisa Sato (アーティスト)

1973年広島県生まれ。愛知県在住。
活動初期は概念的な立体や写真作品などを発表。近年では絵画形式を中心に制作活動を行っている。
主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2016」（名古屋市美術館、2016年）、「反重力」（豊田市美術館、愛知、2013年）、「リアル・ジャパネスク」（国立国際美術館、大阪、2012年）などがある。
2015年よりMAT, Nagoyaコミッティーメンバーも務める。

web : satokatsuhisa.jimdo.com



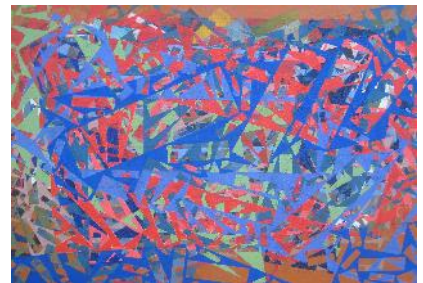
佐藤克久《天のうず》2016 撮影：城戸保

■出展アーティストプロフィール

▶加藤松雄/Matsuo Kato (アーティスト)

1935年愛知県生まれ。同地在住。
画面一面に長方形が無数に配置された抽象画シリーズ《磁場に向けて》を多数制作している。曼荼羅や量子力学などの主題を取り入れた絵画制作を進める傍ら、近年では、自然の様態を「みるために描く」写生作品も制作。
近年の展覧会に「相補する抽象と自然」（東桜会館、愛知、2014年）、「加藤松雄展」（ウエストベスギャラリーコヅカ、愛知、2008年）などがある。

web : katomatsuo.art758.com



加藤松雄《磁場に向けて 16-22》2016

▶原健/Takeshi Hara (アーティスト)

1942年愛知県生まれ。山梨県在住。
腕の一振りや鼓動など、身体性を意識し描いた色彩豊かな作品を制作。リトグラフによる《ストロークス》シリーズや、近年では、油彩によるASUKA（飛華）シリーズを制作している。
近年の展覧会に「STROKES —Takeshi HARA」（チェンマイ大学アートギャラリー、タイ、2015年）、「原健×末永史尚「ホバリング」」（See Saw gallery、愛知、2014年）などがある。

web : www.takeshihara.com



原健《STROKES79-20》1979

▶山村國晶/Kuniaki Yamamura (アーティスト)

1942年愛知県生まれ。同地在住。
1960年代東京で起こった美術運動や欧米のアーティストに触発され、抽象絵画に傾倒する。名古屋に戻った1970年頃より、東洋的な色彩を用いて、単一のモチーフを日々塗り重ねる作品を制作。
近年の展覧会に「山村國晶 —WORK1965-2016—」（SHUMOKU GALLERY、愛知、2016年）、「アイチのチカラ！戦後愛知のアート、70年の歩み」（愛知県美術館、2013年）などがある。



山村國晶《Work2014》2014

■ 絵画のタベ/スピーカープロフィール

▶ 小林耕平 / Kohei Kobayashi (アーティスト)

1974年東京都生まれ。埼玉県在住。

テキストを基にオブジェクトを作成し、そのオブジェクトの鑑賞方法を第三者に指南する映像を制作。言葉から物への変換、言葉や物が指し示す意味またはイメージがどのように生成されるののかに関心がある。

主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2016」（豊橋地区、2016年）、「蓋が開かない、屋根の上の足音」（山本現代、東京、2015年）などがある。



小林耕平《東・海・道・中・膝・栗・毛》2016
撮影：大西正一

▶ 鷺尾友公 / Tomoyuki Washio (アーティスト)

1977年愛知県生まれ。同地在住。

独学で絵画を学び、人物や事象など享受した事柄と関わり合いながら、イラストやデザイン、映像など多岐に渡る制作活動を展開し、人間の自由な行為として表現する。

主な展覧会に「鷺尾友公のWILDTHINGS」（アートラボあいち長者町、2016年）、「栗津潔、マクリヒロゲル1「美術が野を走る: 栗津潔とパフォーマンス」』（金沢21世紀美術館、石川、2014年）などがある。

thisworld.jp



鷺尾友公《Longing〜情景〜》2016

▶ 有馬かおる / Kaoru Arima (アーティスト)

1969年愛知県生まれ。千葉県在住。

活動初期はドローイングを中心に発表。近年ではペインティング、彫刻を制作している。また1996年より自身が住んでいたアパートを「キワマリ荘」（愛知県犬山市）として公開し、展覧会などを企画した。

主な展覧会に「Face of a human」（MISAKO& ROSEN、東京、2015年）、「夏への扉 マイクロポップの時代」（水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城、2007年）などがある。

arimakaoru.blogspot.jp



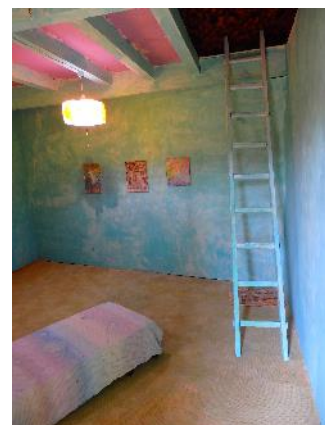
有馬かおる《Night watcher》
2015
撮影：岡野 圭

▶ 梅津庸一 / Yoichi Umetsu (アーティスト)

1982年山形県生まれ。神奈川県在住。

美術、絵画が生起する地点に関心を抱き、日本近代洋画・黎明期の作品を自らに憑依させた自画像や、西洋と東洋の接触面としてのアンノウンの絵画を制作。また私塾パープルルーム予備校の運営、展覧会企画なども行う。

主な展覧会に「X 会とパープルルーム」（もりたか屋、福島、2016年）、「ラムからマトン」（ARATANIURANO/NADiff Gallery、東京、2015年）などがある。



梅津庸一《病気になった絵画、あるいは在宅介護》2016

■ 絵画のタベスピーカープロフィール（続き）

▶ 千葉真智子 / Machiko Chiba（豊田市美術館学芸員）

愛知県生まれ。同地在住。

岡崎市美術博物館学芸員を経て、2015年より現職。近現代美術を専門とし、美術館外の空間でも積極的に企画を行っている。

主な企画に「切断してみる。—二人の耕平」（豊田市美術館、愛知、2017年）、「ほんとのうへのツクリゴト」（岡崎市旧本多忠次邸、愛知、2015年）、「ユーモアと飛躍 そこにふれる」（岡崎市美術博物館、愛知、2013年）などがある。

▶ 木本文平 / Bunpei Kimoto（碧南市藤井達吉現代美術館館長）

1951年愛知県生まれ。同地在住。

愛知県美術館副館長を経て、2008年より現職。日本近現代美術を専門とし、特に愛知県を中心とした郷土作家の研究に携わる。

主な企画に、「画家たちの二十歳の原点」（共同企画、碧南市藤井達吉現代美術館、愛知、2011年）、「杉本健吉展」（愛知県美術館、1994年）などがある。著書に、『画家の詩、詩人の絵』（共著、青幻舎、2015年）など多数。

広報用画像の使用について

本プレスリリース内の画像を使用する場合は下記へお問い合わせください。

※写真に添付しているキャプション・クレジット等を正確に表記してください。

【お問い合わせ】

港まちづくり協議会事務局

広報 | 岡西

〒455-0037 名古屋市名港1-19-23

Minatomachi POTLUCK BUILDING

TEL | 052-654-8911

Mail | okanishi@minnatomachi.jp

Web | www.minnatomachi.jp

www.mat-nagoya.jp



Minatomachi POTLUCK BUILDING
名古屋市港区名港1-19-23

Botão Gallery (ボタンギャラリー)
名古屋市港区名港1-15-14